

改憲協商中間報告

1987. 8. 1

民主正義黨

改憲協商中間報告

1987. 8. 14

民主正義黨

目 次

I. 民正・民主 兩黨 改憲試案對比表 및 會談結果	2
II. 民正・新民 兩黨 改憲試案對比表 및 會談結果	10
III. 民正・國民 兩黨 改憲試案對比表 및 會談結果	18

民正·新民 兩黨 改憲試案對比表 및 會談結果

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	新 民 黨 案	會 談 結 果
前	繼承精神	3.1 運動	上海臨時政府 (3.1 運動), 4.19	3.1 運動, 4.19	
	第 5 共和國	明 示	明 示	削 除	繼續論議 (新民黨 削除主張)
	抵抗權, 文民政治, 政治報復 禁止	없 음	없 음	抵抗權 新設	繼續論議 (新民黨抵抗權 新設 主張)
文	民族中興의 使命, 自由·權利에 따른 責任·義務	있 음	있 음 (自律과 調和 추가)	있 음 (民族中興의 使命은 削除)	
	在外國民保護	宣言的 規定 (§ 2 ②)	具體的 規定으로 補強 (§ 2 ②)	現行과 同 (§ 2 ②)	民正黨案 採擇
總	平和統一努力義務	前文에 明示	前文에 明示	前文에 明示	新民黨案 採擇 (「自由民主主義」明記, 總綱에 新設)
	軍人의 政治介入 禁止	없 음	없 음	없 음	繼續論議
綱	公務員 財產公開	없 음	없 음	있 음	繼續論議
	政黨의 要件	組織 活動이 民主的 (§ 7 ②)	現行과 同 (§ 7 ②)	現行과 同 (§ 7 ②)	
	違憲政黨 解散制度	인정 (憲法委員會 : § 7 ④)	인정 (憲法裁判所 : § 7 ④)	인정 (大法院 : § 7 ④)	繼續論議
基 本 權	處罰과 保安處分의 要件	法律에 의한 處罰·保安處分 인정 (§ 11 ①)	現行과 同 (§ 11 ①)	刑의 宣告에 의해서만 가능 (§ 11 ①)	繼續論議
	令狀制度	現行犯人등 事後令狀制度만 인정 (§ 11 ③ 단서)	現行과 同 (§ 11 ③ 단서)	現行과 同 (§ 11 ③ 단서)	
	逮捕·拘禁時 告知 및 通知	없 음	辯護人의 助力을 받을 權利 告知, 家族에 대한 通知 (§ 11 ⑤)	없 음	

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	新 民 黨 案	會 談 結 果
基 本 權	拘束適否審 범위	法律이 정하는 바에 따라 인정 (§ 11 ⑤)	全面 인정 (§ 11 ⑥)	全面 인정 (§ 11 ⑤)	
	證據能力 제한	自白의 證據能力만 制限 (§ 11 ⑥)	現行과 同 (§ 11 ⑦)	自白의 證據能力만 制限 (§ 11 ⑥)	
	우편물檢閱등 令狀主義	明示하지 않음	明示하지 않음	明示하지 않음	
	言論·出版에 대한 許可·檢閱 禁止	明示하지 않음	明示 (§ 20 ②), 映畫·演藝는 제한적으로 허용 (§ 20 ② 단서)	明 示 (§ 19 ②)	映畫·演藝部門 多數意見에 따르기로 合意
	集會·結社에 대한 許可禁止	明示하지 않음	明 示 (§ 20 ②)	明 示 (§ 19 ②)	
	新聞·通信·放送의 施設 基準, 編輯·編成의 公正化	明示하지 않음	明 示 (§ 20 ③)	明示 (編輯·編成의 公正性은 除外 : § 19 ③)	• 新聞·通信·放送施設基準은 民正黨에 合意 • 編輯·編成部門만 繼續論議
	言論 被害賠償 請求權	明 示 (§ 20 ③ 후단)	明 示 (§ 20 ④ 후단)	削 除	民正黨案 採擇
	科學技術者 權利保護	없 음	新 設 (§ 21 ②)	없 음	
	財産權 收用時 補償	公益 및 關係者利益 衡量, 法律로 정함 (§ 22 ③)	法律이 정하는 바에 따라 正當 補償 (§ 22 ③)	法律이 정하는 바에 따라 正當 補償 (§ 21 ③)	
	選舉年齡	20 세 (§ 23)	20 세 (§ 23)	18 세 (§ 22)	繼續論議
軍法會議裁判管轄權	軍事機密·哨兵·哨所·捕虜·軍事施設 犯罪등, 非常戒嚴時, 非常措置時 (§ 26 ②)	有害飲食物供給·軍用物犯罪 및 非常措置時 削除 (§ 26 ②)	非常戒嚴이 宣布된 경우에만 가능 (§ 25 ②)	繼續論議	

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	新 民 黨 案	會 談 結 果
基 本 權	刑事被害者 裁判陳述權	없 음	新 設 (§ 26 ⑤)	없 음	
	刑事補償請求權	無罪判決받은 被告人 (§ 27)	無嫌疑 處分받은 被疑者 추 가 (§ 27)	民正黨案과 同 (§ 26 ①)	
	軍人·警察의 國家賠償 請求權	二重賠償 禁止 (§ 28 ②)	國家報償 고려, 法律로 규정 (§ 28 ②)	法律이 정하는 바에 따라 인정 (§ 27)	
	刑事被害者 國家救護	없 음	新 設 (§ 29)	없 음	
	教育의 專門性 保障	明 示 (§ 29 ④)	明 示 (§ 30 ④)	明示하지 않음 (§ 28 ④ 참조)	義務教育範圍 (新民黨案은 中 等教育까지 擴大) 부분만 繼 續論議
	大學의 自律性 保障	明示하지 않음	明示하지 않음	明示하지 않음	
	平生教育 振興, 教育·財政· 教員의 地位 保障	있 음 (§ 29 ⑤⑥)	있 음 (§ 30 ⑤⑥)	있음 (財政·教育의 地位 保 障은 除外 : § 28 ⑤⑥ 참조)	
	最低賃金制	없 음	明 示 (§ 31 ①)	明示하지 않음	
	勤勞의 義務	있 음 (§ 30 ②)	있 음 (§ 31 ②)	있 음 (§ 29 ②)	
	女子의 勤勞條件 差別待遇 금지	明示하지 않음	明 示 (§ 31 ④)	明示하지 않음	
	優先就業對象	國家有功者 傷痍軍警 및 戰 歿軍警 유가족 (§ 30 ⑤)	現行과 同 (§ 31 ⑤)	現行과 同 (§ 29 ⑤)	
	團體行動權의 行使	法律로 정함 (§ 31 ① 단서)	現行과 同 (§ 32 ① 단서)	削 除 (§ 30 ① 단서 참조)	新民黨案 採擇 (但書削除)
	公務員의 勞動 3 權	法律로 정한 者만 인정 (§ 31 ②)	現行과 同 (§ 32 ②)	現行과 同 (§ 30 ③)	
	團體行動權의 制限 또는 不認 定 범위	國家·地方自治團體·國公營 企業體·防衛產業體·公益事 業體등 (§ 31 ②)	法律이 정하는 防衛產業體 (§ 32 ③)	削 除	繼續論議

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	新 民 黨 案	會 談 結 果
基 本 權	勤勞者의 經營參加權, 利益均霑權	없 음	없 음	利益均霑權만 新設	繼續論議
	女子의 福祉·權益向上	明示하지 않음	明 示(§ 33 ②)	明示하지 않음	文案整理(新民黨案의 社會保障豫算 計上 繼續論議)
	國家救護對象	生活能力 없는 國民(§ 32 ③)	身體障礙者 추가(§ 33 ⑤)	現行과 同(§ 31 ③)	
	國家福祉政策對象	明示하지 않음	老人·靑少年의 福祉·災害 및 疾病豫防, 醫療增進(§ 33 ④⑥, § 35 ③)	明示하지 않음	
	國家의 住宅開發	明示하지 않음	明 示(§ 34 ②)	明示하지 않음	文案整理
	婚姻·家族生活 兩性平等	宣言的 規定(§ 34 ①)	具體的 規定으로 補強(§ 35 ①)	現行과 同(§ 32 ①)	民主黨案 採擇(文案整理)
	母性保護(妊娠, 出產, 育兒)	明示하지 않음	明 示(§ 35 ②)	明示하지 않음	
	基本權 制限要件	國家安保·秩序維持·公共福利上 法律로 制限(§ 35 ②)	「불가피한 경우에 最少限의 範圍」에 한정되도록 要件強化(§ 36 ②)	國家安全保障 削除(§ 33 ②)	現行憲法 유지하되 「國家安全保障」削除 與否는 繼續論議
國 會	得票率에 따른 比例代表 議席配分	없 음	없 음	없 음	比例代表制 採擇 明示與否에 관하여 新民黨案 採擇
	免責特權 범위	國會에서의 職務上 發言·表決(§ 81)	現行과 同(§ 44)	現行과 同(§ 43)	
	國會臨時會 召集要件	在籍議員 1/3 (§ 83 ①)	在籍議員 1/4 (§ 46 ①)	在籍議員 1/4 (§ 44 ②)	
	定期會 會期	90日(§ 83 ②, § 90 ②)	90日(§ 46 ②, § 53 ②)	120日(§ 44 ③)	100日로 意見接近(豫算案 提出時期는 90日로 合意)

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	新 民 黨 案	會 談 結 果
國 會	年間 開會日數 150日 制限 및 大統領召集 國會議題 제한	있 음 (§ 83 ③ ⑤)	削 除	削 除	
	國會非公開會議 要件	國會議決, 議長判斷 (§ 86 ① 단서)	現行과 同 (§ 49 ① 단서)	議長判斷에 의한 非公開 削 除 (§ 47 ①)	民正黨案 採擇
	法院豫算編成權	없 음	없 음	없 음	
	準豫算支出 基準	前年度 豫算에 準하여 (§ 90 ③)	現行과 同 (§ 53 ③)	「歲入의 범위안에서」추가 (§ 51 ③)	
	國政調査·監査	國政調査, 裁判·犯罪搜查등 干涉禁止	國政監査, 裁判·犯罪搜查등 干涉禁止, 監査對象·範圍· 節次는 法律에 위임 (§ 60 ① ②)	國政調査 추가 (§ 58)	○ 調査까지 규정하는 문제 는 繼續 論議 ○ 民正黨案 第2項은 採擇
	國務總理·國務委員 出席要求	國會나 委員會議決, 代理答 辯 허용 (§ 98 ②)	現行과 同 (§ 61 ②)	在籍議員 1/4, 代理答辯制度 削除 (§ 59)	○ 繼續 論議 (代理答辯制度 는 유지하기로 合意) * 大統領의 國會出席義務 繼續 論議
	國務總理, 國務委員 不信任	解任議決權 (國務總理는 1年 間 禁止), 在籍議員 1/3 發議, 國務總理 解任時 全 國務委員 解任 (§ 99)	現行과 同 (§ 62)	解任決議權 (國務總理 1年 間 금지 規定은 削除 : § 60)	
彈劾審判委員會	없 음	없 음	新 設 (§ 63)	○ 彈劾對象에 監査院長 明 示 合意 ○ 彈劾議決定足數 (在籍 3分之 2) 新民黨案 肯定的 檢討	

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	新 民 黨 案	會 談 結 果
政	大統領의 地位	國家元首, 行政府 首班 (§ 38 ①④)	現行과 同 (§ 65 ①④)	國家元首 削除 (§ 64 참조)	○ 「國家元首」地位 採擇 ○ 大統領의 平和統一 義務 新設 (新民黨) 繼續論議
	副統領制	없 음	없 음	新 設 權限 : 大統領補佐 · 職務代行 및 承繼 (§ 64 ③) 選舉 : 直選, 補闕選舉등 (§ 67 ② 참조) 任期 : 4年 (§ 68 ①) 기타 : 彈劾 (§ 62 ①), 權限 代行 (§ 69), 國務會 議構成員 (§ 84 ②)	繼續論議
	大統領選舉	間 選 (§ 39 ~ § 41)	直 選 (§ 66 ①) * 決選投票 및 單獨立候補 特例 (§ 66 ②③)	直 選 (§ 65, § 66) * 民正黨案과 同 (§ 66 ① ②)	
	大統領 立候補要件	政黨 또는 大統領選舉人 추 천 (§ 39 ②), 5年이상 國 內居住등 (§ 42)	政黨추천 明示하지 않음. 5年이상 國內居住 (§ 66 ④)	政黨추천, 5年이상 國內居 住 削除 (§ 65 ②)	5年 國內居住要件 繼續論議
	任期 · 重任制限	7年單任. 憲法改正 效力制 限 (§ 45, § 129 ②)	6年單任, 憲法改正 效力制 限 (§ 67 ①②)	4年 1次重任 (§ 68 ①②)	繼續論議
	後任者 選舉	任期滿了 30日前, 闕位後 3月이내 (§ 43)	任期滿了 70日 내지 40 日前, 闕位後 即時 (§ 68)	任期滿了 60내지 40日前, 闕位後 60日이내 (§ 67 ①)	民正黨案 採擇 (文案整理), 大統領有故時 承繼條項은 繼 續論議
	補闕選舉	規定없음 (殘任期間 在任규 정 않음)	現行과 同	殘任期間 1年未滿時 補闕 選舉없음 (§ 67 ② 단서 참조), 規定없음	
	大統領 就任場所	明示하지 않음 (§ 44 참조)	明示하지 않음 (§ 70 참조)	明示하지 않음 (§ 70 참조)	大統領 宣誓條項 繼續論議
府					

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	新 民 黨 案	會 談 結 果
政	國民投票附議權	外交·國防·統一 기타 國家安危에 관한 重要政策(§ 47)	現行과 同(§ 71)	領土의 變更추가, 外交·國防은 削除(§ 74)	新民黨案 前向的 檢討
	非常措置權등	非常措置權(§ 51, § 65)	緊急財政·經濟處分 및 命令權, 緊急命令權(§ 75, § 89)	民正黨案과 同(§ 75, § 87)	文案整理
	非常戒嚴의 效力	令狀制度, 言論·出版·集會·結社의 自由, 政府나 法院의 權限변경(§ 52 ③)	現行과 同(§ 76 ③)	現行과 同(§ 76 ③)	
	戒嚴에 대한 國會의 統制	戒嚴후 지체없이 國會通告, 在籍過半數 解除要求(§ 52 ④ ⑤)	現行과 同(§ 76 ④ ⑤)	現行과 同(§ 76 ④ ⑤)	
	國會解散權	인정(§ 57, § 65, § 87 단서)	인정(§ 81, § 89, § 50 단서)	불인정(§ 87)	繼續論議
	國務會議性格	審議機關(§ 64 ①, § 65)	現行과 同(§ 88 ①, § 89)	審議議決機關(§ 84 ①)	○繼續論議(字句整理 문제로 理解) ○國務會議 審議內容은 民正黨案 採擇
	國政諮問會議, 平和統一政策諮問會議	있 음(§ 66, § 68)	있 음(§ 90, § 92)	廢 止	繼續論議
特別檢事制	없 음	없 음	없 음		
監查院長 闕位時 後任者 任命	殘任期間(§ 73 ③)	削 除(§ 97 참조)	現行과 同(§ 94 ③)	民正黨案 採擇	
法 院	行政·租稅등 專擔部 設置 근거	明 示(§ 103 ②)	明 示(§ 101 ②)	明 示(§ 98 ① 참조)	
	大法官의 數	明示하지 않음	明示하지 않음	20 人 이내(§ 98 ②)	民正黨案 採擇

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	新 民 黨 案	會 談 結 果
法	大法院長 任命方法	大統領이 國會同意얻어 任命 (§ 105 ①)	現行과 同 (§ 103 ①)	法官推薦會議 제청으로 大統領이 國會同意얻어 任命 (§ 100 ①)	繼續論議
	大法官 任命方法	大法院長 提請으로 大統領이 任命 (§ 105 ②)	現行과 同 (§ 103 ②)	大法院長이 法官推薦會議 同意얻어 提請하고 大統領이 任命 (§ 100 ②)	
	一般法官 任命方法	大法院長이 任命 (§ 105 ③)	現行과 同 (§ 103 ③)	大法官會議 議決로 大法院長이 任命 (§ 100 ②)	
	大法院長 任期	5 年 單任 (§ 106 ①)	6 年 單位 (§ 104 ①)	6 年, 連任허용 (§ 101 ①)	6 年 單任에 合意 (停年條項은 前向的 檢討)
	大法官 任期	5 年, 連任허용 (§ 106 ②)	6 年, 連任허용 (§ 104 ②)	6 年, 連任허용 (§ 101 ①)	
	一般法官 任期	10 年, 連任허용 (§ 106 ③)	現行과 同 (§ 104 ③)	10 年, 法律의 規定에 의거 連任가능 (§ 101 ②)	
	法官의 停年	法律로 정함 (§ 106 ④)	現行과 同 (§ 104 ④)	大法院長 70 歲, 기타 法官 65 歲 (§ 101 ③)	
	法官의 罷免事由 (憲法裁判官 · 中央選管委員도 같음)	彈劾 形罰 (§ 107 ①, § 113 ③, § 115 ⑤)	彈劾, 禁錮이상의 刑 (§ 105 ①, § 111 ③, § 113 ⑤)	現行과 同 (§ 102 ①)	民正黨案採擇
	違憲法律審查	裁判의 前提가 된 경우 法院에서 違憲으로 인정할 때 憲法委員會에 제청 (§ 108 ①)	裁判의 前提가 된 경우 憲法裁判所에 제청 (§ 106 ①)	大法院에서 최종 審査 (§ 103 ①)	繼續論議
軍事裁判 單審制	非常戒嚴下 軍人 · 軍務員 犯罪, 間諜罪등 (§ 111 ④)	有害飲食物 供給犯罪만 削除 (§ 109 ④)	現行과 同 (§ 107 ③)		
憲法裁判	憲法裁判機關	憲法委員會 (제 6 장)	憲法裁判所 (제 6 장)	大法院, 彈劾審判委員會 (§ 103, § 63)	繼續論議
	憲法裁判事項	違憲法律審查, 彈劾, 政黨解散 (§ 112 ①)	機關間 權限爭議 추가 (§ 110 ①)	現行과 同 (§ 7 ④, § 63, § 103 참조)	

民正·國民 兩黨 改憲試案對比表 및 會談結果

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	國 民 黨 案	會 談 結 果
前	繼承精神	3.1 運動	上海臨時政府 (3.1 運動), 4.19	3.1 運動, 4.19	上海臨時政府 法統追加 合意
	第 5 共和國	明 示	明 示	削 除	繼續論議 (國民黨 削除主張)
	抵抗權, 文民政治, 政治報復 禁止	없 음	없 음	抵抗權 新設	繼續論議 (國民黨 抵抗權 新設主張)
	民族中興의 使命, 自由·權利에 따른 責任·義務	있 음	있 음 (自律과 調和 추가)	있 음	
總 綱	在外國民保護	宣言的 規定 (§ 2 ②)	具體的 規定으로 補強 (§ 2 ②)	現行과 同 (§ 2 ②)	
	平和統一 努力義務	前文에 明示	前文에 明示	前文에 明示	
	軍人의 政治介入 禁止	없 음	없 음	없 음	
	公務員 財產公開	없 음	없 음	없 음	
	政黨의 要件	組織, 活動이 民主的 (§ 7 ②)	現行과 同 (§ 7 ②)	現行과 同 (§ 7 ②)	
	違憲政黨 解散制度	인정 (憲法委員會 : § 7 ④)	인정 (憲法裁判所 : § 7 ④)	인정 (大法院 : § 7 ④)	繼續論議
基 本 權	處罰과 保安處分의 要件	法律에 의한 處罰·保安處分 인정 (§ 11 ①)	現行과 同 (§ 11 ①)	處罰은 現行과 同, 裁判에 의한 保安處分 인정 (§ 11 ①)	繼續論議 (保安處分)
	令狀制度	現行犯人등 事後令狀制度만 인정 (§ 11 ③ 단서)	現行과 同 (§ 11 ③ 단서)	現行과 同 (§ 11 ③ 단서)	
	逮捕·拘禁時 告知 및 通知	없 음	辯護人의 助力을 받을 權利 告知, 家族에 대한 通知 (§ 11 ⑤)	없 음	家族通知明示는 國民黨이 反 對하나 民正黨案에 意見接近

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	國 民 黨 案	會 談 結 果
基 本	拘束適否審 범위	法律이 정하는 바에 따라 인정(§ 11 ⑤)	全面 인정(§ 11 ⑥)	全面 인정(§ 11 ⑤)	
	證據能力 제한	自白의 證據能力만 制限 (§ 11 ⑥)	現行과 同(§ 11 ⑦)	自白의 證據能力만 制限 (§ 11 ⑥)	
	우편물檢閱등 令狀主義	明示하지 않음	明示하지 않음	明示하지 않음	
	言論·出版에 대한 許可·檢閱 禁止	明示하지 않음	明示(§ 20 ②), 映畫·演藝는 제한적으로 許容(§ 20 ② 단서)	明 示(§ 20 ②)	映畫·演藝部分은 繼續 論議
	集會·結社에 대한 許可禁止	明示하지 않음	明 示(§ 20 ②)	明 示(§ 20 ②)	
	新聞·通信·放送의 施設 基準, 編輯·編成의 公正性	明示하지 않음	明 示(§ 20 ③)	明示(編輯·編成의 公正性은 除外: § 20 ③)	·新聞·通信·放送의 施設基準部分은 民正黨案에 意見接近 ·編輯·編成부분은 繼續 論議
	言論 被害賠償請求權	明 示(§ 20 ③ 후단)	明 示(§ 20 ④ 후단)	削 除	民正黨案으로 意見接近
	科學技術者 權利保護	없 음	新 設(§ 21 ②)	없 음	民正黨案으로 意見接近
	財産權 收用時 補償	公益 및 關係者利益 衡量, 法律로 정함(§ 22 ③)	法律이 정하는 바에 따라 正當補償(§ 22 ③)	法律이 정하는 바에 따라 正當補償(§ 22 ③)	
	選舉年齡	20 세 (§ 23)	20 세 (§ 23)	18 세 (§ 23)	繼續 論議
權	軍法會議裁判管轄權	軍事機密·哨兵·哨所·捕虜·軍事施設 犯罪등, 非常戒嚴時, 非常措置時(§ 26 ②)	有害飲食物供給·軍用物犯罪 및 非常措置時 削除(§ 26 ②)	軍事에 관한 間諜罪 추가, 軍用物 犯罪 및 非常措置時 削除(§ 26 ②)	民正黨案으로 合意
	刑事被害者 裁判陳述權	없 음	新 設(§ 26 ⑤)	없 음	民正黨案 採擇
	刑事補償請求權	無罪判決받은 被告人(§ 27)	無嫌疑 處分받은 被疑者 추가(§ 27)	民正黨案과 同	

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	國 民 黨 案	會 談 結 果
基 本	軍人·警察의 國家賠償請求權	二重賠償 禁止(§ 28 ②)	國家報償 고려, 法律로 규정 (§ 28 ②)	法律이 정하는 바에 따라 인정 (§ 28 ①)	繼續論議 (國民黨은 民正黨案 第2項 削除主張)
	刑事被害者 國家救護	없 음	新 設 (§ 29)	없 음	民正黨案 採擇
	教育의 專門性 保障	明 示 (§ 29 ④)	明 示 (§ 30 ④)	明 示 (§ 29 ④)	文案 整理
	大學의 自律性 保障	明示하지 않음	明示하지 않음	明示하지 않음	
	平生教育 振興, 教育·財政·教員의 地位 保障	있 음 (§ 29 ⑤⑥)	있 음 (§ 30 ⑤⑥)	있음 (財政·教育의 地位 保障은 除外: § 29 ⑥ 참조)	
	最低賃金制	없 음	明 示 (§ 31 ①)	明示하지 않음	
	勤勞의 義務	있 음 (§ 30 ②)	있 음 (§ 31 ②)	있 음 (§ 30 ②)	
	女子의 勤勞條件 差別待遇 금지	明示하지 않음	明 示 (§ 31 ④)	明示하지 않음	民正黨案 採擇하되 文案整理
	優先就業對象	國家有功者 傷痍軍警 및 戰歿軍警 유가족 (§ 30 ⑤)	現行과 同 (§ 31 ⑤)	現行과 同 (§ 30 ⑤)	
	團體行動權의 行使	法律로 정함 (§ 31 ① 단서)	現行과 同 (§ 32 ① 단서)	現行과 同 (§ 32 ① 단서)	第3項 削除與否 繼續論議
公務員의 勞動3權	法律로 정한 者만 인정 (§ 31 ②)	現行과 同 (§ 32 ②)	現行과 同 (§ 31 ②)		
權	團體行動權의 制限 또는 不認定 범위	國家·地方自治團體·國公營企業體·防衛產業體·公益事業體 등 (§ 31 ③)	法律이 정하는 防衛產業體 (§ 32 ③)	削 除	
	勤勞者의 經營參加權, 利益均霑權	없 음	없 음	없 음	

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	國 民 黨 案	會 談 結 果
基 本 權	女子의 福祉·權益向上	明示하지 않음	明 示(§ 33 ②)	明示하지 않음	民正黨案 採擇하되 文案整理
	國家救護對象	生活能力없는 國民(§ 32 ③)	身體障礙者 추가(§ 33 ⑤)	現行과 同(§ 32 ③)	民正黨案 採擇하되 文案整理
	國家福祉政策對象	明示하지 않음	老人·靑少年의 福祉·災害 및 疾病豫防, 醫療增進 (§ 33 ④⑥, § 35 ③)	明示하지 않음	民正黨案 採擇하되 文案整理
	國家의 住宅開發	明示하지 않음	明 示(§ 34 ②)	明示하지 않음	民正黨案 採擇
	婚姻·家族生活 兩性平等	宣言的 規定(§ 34 ①)	具體的 規定으로 補强 (§ 35 ①)	現行과 同(§ 34)	現行憲法 유지
	母性保護(妊娠, 出產, 育兒)	明示하지 않음	明 示(§ 35 ②)	明示하지 않음	民正黨案 採擇
國 會	基本權 制限要件	國家安保·秩序維持·公共福利 上 法律로 制限(§ 35 ②)	「불가피한 경우에 最少限의 範圍」에 한정되도록 要件强 化(§ 36 ②)	現行과 同(§ 35 ②)	國民黨案 採擇(現行憲法 유지)
	得票率에 따른 比例代表 議席 配分	없 음	없 음	없 음	
	免責特權 범위	國會에서의 職務上 發言·表 決(§ 81)	現行과 同(§ 44)	現行과 同(§ 75)	
國會臨時會 召集要件	在籍議員 1/3 (§ 83 ①)	在籍議員 1/4 (§ 46 ①)	在籍議員 1/4 (§ 77 ①)		

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	國 民 黨 案	會 談 結 果
國 會	定期會 會期	90日(§83②, §90②)	90日(§46②, §53②)	120日(§77②)	100日案에 意見接近
	年間 開會日數 150日 制限 및 大統領召集 國會議題 制限	있음(§83③⑤)	削 除	削 除	
	國會 非公開會議 要件	國會議決, 議長判斷(§86① 단서)	現行과 同(§49① 단서)	議長判斷에 의한 非公開 削除(§80①)	民正黨案에 意見接近
	法院豫算編成權	없 음	없 음	없 음	
	準豫算支出 基準	前年度 豫算에 準하여 (§90③)	現行과 同(§53③)	「歲入의 범위안에서」 추 가(§84③)	民正黨案 採擇
	國政調查·監查	國政調查, 裁判·犯罪搜查등 干涉禁止(§97)	國政監查, 裁判·犯罪搜查등 干涉禁止, 監查對象·範圍· 節次는 法律에 위임(§60 ①②)	國政監查 추가(§91)	繼續論議(民正黨案 第2項 에 異見)
	國務總理·國務委員 出席要求	國會나 委員會 議決, 代理 答辯 허용(§98②)	現行과 同(§61②)	現行과 同(§92)	

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	國 民 黨 案	會 談 結 果
國 會	國務總理，國務委員 不信任	解任議決權（國務總理는 1年 間 禁止），在籍議員 1/3 發 議，國務總理 解任時 全國務 委員 解任（§ 99）	現行과 同（§ 62）	解任議決權（國務總理 1年間 禁止，國務總理 解任時 全國 務委員 解任規定은 削除，在 籍議員 1/4 發議：§ 93）	繼續論議
	彈劾審判委員會	없 음	없 음	新 設（§ 96）	
政 府	大統領의 地位	國家元首，行政府 首班	現行과 同（§ 65 ①④）	國家元首 削制（§ 38 참조）	國家元首 存置合意
	副統領制	없 음	없 음	없 음	
	大統領選舉	間 選（§ 39 ~ § 41）	直選（§ 66 ①） * 決選投票 및 單獨立候補 特例（§ 66 ②③）	直 選（§ 39, § 40） 當選者 決定의 特例（國會選 出）및 單獨立候補 特例	
	大統領 立候補條件	政黨 또는 大統領選舉人 추 친（§ 39 ②），5年이상 國 內居住등（§ 42）	政黨추천 明示하지 않음。 5年이상 國內居住（§ 66 ④）	政黨추천, 5年이상 國內居住 削制（§ 39）	○ 政黨추천은 民正黨案採擇 ○ 5年國內居住要件 繼續 論議
	任期・重任制限	7年單任，憲法改正 效力制限 （§ 45, § 129 ②）	6年單任，憲法改正 效力制限 （§ 67 ①②）	4年 1次重任（§ 42）	繼續論議
	後任者 選舉	任期滿了 30日前，闕位後 3 月이내（§ 43）	任期滿了 70日 내지 40日 前，闕位後 即時（§ 68）	任期滿了 60日前，闕位後 60 日이내（§ 41）	民正黨案에 意見接近
	補闕選舉	規定없음（殘任期間 在任규정 없음）	現行과 同	殘任期間 1年未滿時 補闕選 舉없음（§ 41 ②단서참조）， 規定없음	
大統領 就任場所	明示하지 않음（§ 44 참조）	明示하지 않음（§ 70 참조）	明示하지 않음（§ 44 참조）	大統領 就任時 國會議員등 參席에 관한 國民黨案 肯定 檢討	

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	黨 案	會 談 結 果
政	國民投票附議權	外交·國防·統一 기타 國家安危에 관한 重要政策(§47)	現行과 同(§71)	削 除	繼續論議
	非常措置權등	非常措置權(§51, §65)	緊急財政·經濟處分 및 命令權, 緊急命令權(§75, §89)	民正黨案과 同(§47, §60)	
	非常戒嚴의 效力	令狀制度, 言論·出版·集會·結社의 自由, 政府나 法院의 權限변경(§52③)	現行과 同(§76③)	現行과 同(§49)	
	戒嚴에 대한 國會의 統制	戒嚴後 지체없이 國會通告, 在籍 過半數 解除要求(§52④⑤)	現行과 同(§76④⑤)	現行과 同(§49④⑤)	
	國會解散權	인정(§57, §65, §87 단서)	인정(§81, §89, §50 단서)	불인정(§60)	繼續論議
	國務會議性格	審議機關(§64①, §65)	現行과 同(§88①, §89)	審議議決機關(§57①, §60)	現行憲法유지
	國政諮問會議, 平和統一政策 諮問會議	있 음(§66, §68)	있 음(§90, §92)	廢 止	繼續論議
	特別檢事制	없 음	없 음	없 음	
法 院	監査院長 闕位時 後任者 任命	殘任期間(§73③)	削 除(§97 참조)	現行과 同(§67③)	
	行政·租稅등 專擔部 設置 근거	明 示(§103②)	明 示(§101②)	削 除	國民黨案採擇(第2項削除)
	大法官의 數	明示하지 않음	明示하지 않음	明示하지 않음	
	大法院長 任命方法	大統領이 國會同意언어 任命(§105①)	現行과 同(§103①)	法官推薦會議 제청으로 大統領이 國會同意 언어 任命(§100①)	繼續論議
大法官 任命方法	大法院長 提請으로 大統領이 任命(§105②)	現行과 同(§103②)	法官推薦會議의 提請으로 大法院長이 任命(§100②)		

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	國 民 黨 案	會 談 結 果
法 院	一般法官 任命方法	大法院長이 任命(§ 105 ③)	現行과 同(§ 103 ③)	現行과 同(§ 100 ③)	
	大法院長 任期	5年 單任(§ 106 ①)	6年 單任(§ 104 ①)	現行과 同(§ 101 ①)	民正黨案으로 意見接近
	大法官 任期	5年, 連任허용(§ 106 ②)	6年, 連任허용(§ 104 ②)	現行과 同(§ 101 ②)	
	一般法官 任期	10年, 連任허용(§ 106 ③)	現行과 同(§ 104 ③)	現行과 同(§ 101 ③)	
	法官의 停年	法律로 정함(§ 106 ④)	現行과 同(§ 104 ④)	現行과 同(§ 101 ④)	
	法官의 罷免事由(憲法裁判官·中央選管委員도 같음)	彈劾, 刑罰(§ 107 ①, § 113 ③, § 115 ⑤)	彈劾, 禁錮이상의 刑(§ 105 ①, § 111 ③, § 113 ⑤)	現行과 同(§ 102 ①)	民正黨案採擇
	違憲法律審査	裁判의 前提가 된 경우 法院에서 違憲으로 인정할 때 憲法委員會에 제청(§ 108 ①)	裁判의 前提가 된 경우 憲法裁判所에 제청(§ 106 ①)	裁判의 前提가 된 경우 大法院에서 최종 審査(§ 103 ①)	繼續論議
軍事裁判 單審制	非常戒嚴下 軍人·軍務員 犯罪, 間諜罪등(§ 111 ④)	有害飲食物 供給犯罪단 削除(§ 109 ④)	現行과 同(§ 107 ④)	現行憲法으로 贊同 合意	
憲 法 裁 判	憲法裁判機關	憲法委員會(제 6 장)	憲法裁判所(제 6 장)	大法院, 彈劾審判委員會(§ 103, § 96)	繼續論議
	憲法裁判事項	違憲法律審査, 彈劾, 政黨 解散(§ 112 ①)	機關間 權限爭議 추가(§ 110 ①)	現行과 同(§ 7 ④, § 96, § 103 참조)	
	憲法委員(裁判官)資格	法律로 정함(§ 113 ④)	法官의 資格가진 者(§ 110 ②)	없 음	
選 舉 管 理	中央選舉管理委員選出	大統領 3人, 國會選出 3人, 大法院長 指名 3人	現行과 履(§ 113 ②)	現行과 同(§ 108)	
	中央選舉管理委員 任期	5年(§ 115 ③)	5年(§ 113 ③)	現行과 同(§ 108 ③)	
	內部規律 規則制定權	없 음	新 設(§ 113 ⑥ 후단)	없 음	民正黨案採擇

編別	項 目	現 行 憲 法	民 正 黨 案	國 民 黨 案	會 談 結 果
地方自治	地方自治團體長 및 議會議員 選任方法	法律로 정함(§ 119 ②)	現行과 同(§ 117 ②)	住民直選(§ 112 ①)	繼續論議
經 濟	經濟에 대한 規制·調整	社會正義實現 및 國民經濟의 均衡發展을 위하여 必要한 規 制·調整 및 獨寡占 폐단 規 制·調整(§ 120 ②③)	成長·安定 및 分配의 均衡 維持, 市場支配와 經濟濫用 방 지, 産業民主化를 위한 規制 ·調整 인정(§ 118 ②)	現行과 同(§ 113 ②③)	文案整理
	農地制度	小作禁止, 農地賃貸借 및 委 託經營 部分的 認定(§ 122)	現行과 同(§ 120)	現行과 同(§ 115)	
	農·漁村 開發	自助를 기반으로 하는 開發 計劃(§ 124 ①)	農·漁民의 福祉增進을 위한 開發 및 支援計劃(§ 122 ①)	現行과 同(§ 117 ①)	文案整理
	地域經濟 育成	明示하지 않음(§ 124 ①참조)	明 示(§ 122 ②)	明示하지 않음	民正黨案 採擇